

平成 15 年 11 月 12 日

各 位

上場会社名 玉井商船株式会社
本社所在地 東京都港区芝大門二丁目 12 番 10 号
コード番号 9127
U R L <http://www.tamaiship.co.jp>
上場取引所 大阪証券取引所 第 2 部
決算期 年 1 回、3 月 31 日
代表者 役職名 取締役社長
氏名 本馬 修
問合せ先 責任者役職名 取締役経理部長
氏名 平田 博司
T E L 03(5472)7031

- ・ 中間連結業績予想の修正について
- ・ 中間業績（単独）予想の修正について

・ 中間連結業績予想の修正について

1. 平成 15 年 9 月中間期（平成 15 年 4 月 1 日～平成 15 年 9 月 30 日）の中間連結業績予想については、平成 15 年 5 月 27 日連結決算発表時の業績予想を下表のとおり修正いたします。

(1) 中間連結会計期間の業績予想（平成 15 年 4 月 1 日～平成 15 年 9 月 30 日）

	単 位	営 業 収 益	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前回予想 (A)	百万円	1,860	90	60
今回修正 (B)	百万円	1,827	407	256
増減額 (B - A)	百万円	33	317	196
増減率	%	1.8		

2. 上記修正の理由は以下のとおりであります。

平成 15 年 9 月中間期の連結業績は、営業収益 1,860 百万円、経常損失 90 百万円、中間純損失 60 百万円を予想しておりましたが、外航海運業部門においては、ボーキサイト航海数の 1 航海減、為替が円高で推移したことなどにより、減収となる見込みであります。内航海運業においては、内航タンカーの航海数増により微増となる見込みで、差し引き営業収益は、33 百万円減の、1,827 百万円となる見込みであります。

一方、営業費用は、外航部門で、海運市況高騰の影響で一部短期用船の借船料増、燃料費高がございましたが、航海数減や円高による影響で相殺され、運航費、借船料は減少となる見込みで、内航部門での入渠船の増加による修繕費（船費）増と相殺となり、予想よりも差し引きで 12 百万円減少し、1,834 百万円となる見込みで、その結果、営業利益は、12 百万円の利益を予想しておりましたが、19 百万円悪化し 7 百万円の損失となる見込みであります。

また、当初予想では、中間期末の為替レートを 120 円と予想しておりましたが、9 円程度円高となったため、営業外費用として、ドル決算の海外子会社の円建て長期借入金のドル換算額が増え、その増加額 2,689 千ドル（319 百万円）を為替換算差損として計上することとなり、経常損失は、90 百万円を見込んでおりましたが、317 百万円増加し 407 百万円となる見込みであります。なお、この長期借入金に係る為替換算差損は、会計処理上の換算差で何ら資金流出を伴っているものではありません。

また、特別損益、法人税等調整額などを加減して、当期純損失は、当初 60 百万円を見込んでおりましたが、196 百万円増加し 256 百万円となる見込みであります。

なお、通期業績予想の修正については、中間連結決算発表時に行う予定であります。

3. 参 考 前期の実績（平成 14 年 4 月 1 日～平成 15 年 3 月 31 日）

（単位 百万円）

	営 業 収 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
通 期	4,154	696	398

・中間業績（単独）予想の修正について

1. 平成15年9月中間期（平成15年4月1日～平成15年9月30日）の業績予想については、平成15年5月27日決算発表時の業績予想を下表のとおり修正いたします。

(1)中間期（平成15年4月1日～平成15年9月30日）

	単 位	営 業 収 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回予想 (A)	百万円	1,770	30	30
今回修正 (B)	百万円	1,741	13	18
増減額 (B - A)	百万円	29	17	12
増 減 率	%	1.6		

2. 参 考 前期の実績（平成14年4月1日～平成15年3月31日）

（単位 百万円）

	営 業 収 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
通 期	4,003	104	49

以 上